

資料 B～F についての説明

資料 8

資料 B について

- ① 令和5年度に、市の各課が実施した文化・芸術に関連する事業（各種講座や催事・イベント等）を対象としています。
- ② 基本目標・各方向性は、資料 A 文化創造ビジョンの目標・施策一覧に該当する事業目標の主たるものから順に左側から、施策目標の番号を記載しています。また、事業は、主な基本目標の順に整理しています。
- ③ 主な対象者、実施内容や課題、今後のビジョンについて、それぞれ記載しています。
- ④ 文化活動の形態、広報活動の媒体、協働した団体、事業費、情報発信の方法とその自己評価、について、それぞれ記載しています。
- ⑤ 事業全体の自己評価については、当該年度における担当課の意見と、また、事業の計画に対して どのような結果であったのか S・A・B・C の4段階で記載しています。
S : 計画以上の効果があった
A : ほぼ計画どおり
B : 計画を、やや達成できず
C : 計画を達成できず
- ⑥ 「新規」とは、その年度から取り組んだ事業について、「継続」は、次年度も実施した場合（予定含む）についてそれぞれ○を記載しています。

資料 C・D・E について

- ① 文化施設3館（1. 浪切ホール、2. 自泉会館、3. マドカホール）が令和5年度に実施した文化・芸術の事業を対象としています。
- ② 浪切ホールと自泉会館の指定管理者募集時において、計画の第6章で定めた、各施設の役割に沿った事業展開を求めています。
- ③ 浪切ホールは事業本数が多いため、別途、資料 A-2 をご覧ください。
- ④ 自己評価については、資料1と同様に、S・A・B・C の4段階で記載しています。
また、「来場者の満足度」「入場率」「事業実施者の満足度」の3つの側面からも評価を行っています。